

令和8年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立城東中学校

1 自己評価書

教育目標 夢を力にたくましく生きる生徒の育成					
基本方針		コミュニティスクールを活性化させ地域の教育と連携し、保護者や地域の願いを踏まえながら、校内外の諸活動に主体的に取り組み、思いやりの心を持ちたくましく生きる生徒を育成する。また、分かる授業の実現による確かな学力、感動と充実感を味わう多様な集団活動の充実による豊かな心、たくましく生きるための体力の向上に取り組み、変化する社会を生き抜いていく力を身に付けさせる。			
本年度重点目標		1. 学びの充実 2. 豊かな心の醸成 3. たくましく生き抜く力の育成 4. 生徒指導の充実 5. 健康・安全教育の推進 6. 家庭・地域から信頼され、誇りとされる学校づくりの推進 7. 働き方改革の推進			
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		後期のみ
			・具体的な対策の実施		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
		文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	B	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
(成果と課題) ②授業モデルを視点とした授業改善や読解力の育成について、教職員・保護者・生徒から高い評価を得た。主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践が進み、その成果が児童生徒にも実感されている。課題としては、タブレット端末やEILSの活用は、教職員・生徒からは高評価であったが、保護者はB評価であった。ICT活用の目的や具体的な学習効果について、保護者への発信を更に充実させる必要がある。 ③授業と家庭学習を連動させる取組を進め、教職員・生徒から一定の評価を得た。保護者の評価がCであり、家庭学習の内容や目的、家庭との連携が十分に伝わっていない。今後は、家庭学習の進め方やねらいを明確にし、家庭への周知と協力体制を更に充実させる必要がある。 ④朝の読書活動に学級文庫が活用されている。 ④図書室を利用する生徒が少ないので、図書室に来やすくなるような工夫が必要である。 ⑤宇和島水産高校教員及び蒲鉾組合の方からの講話を通して、日頃口にしている水産加工品ができる工程や物流、水産業の多様な職種について具体的に学ぶことができた。今後の探究学習における研究テーマの設定や情報収集・まとめに向けた明確な手掛かり・視点を定めることができた。 ⑤「みんなであつこう、ずっと住みたいまち」をテーマに福祉学習に重点を置いた学習を実施した。障害があってもまわりの温かな心で共に歩んでいこうという心を醸成することができ、協力者の皆様や社会福祉協議会、公民館と連携したよい学びができた。今後は、啓発ポスターの作成や文化祭での発表を通して学校全体に学んだことを共有していきたい。 ⑤総合的な学習の時間を通して、地域の良さと地域にある職業に目を向けることができた。職場体験学習の事前準備をする中で、自分の将来について考える時間が持てた。					
(改善策等) ②今後も、授業モデルを活用した授業改善や読解力の育成を継続するとともに、端末やEILSを活用する目的を明確にし、生徒一人一人の学習状況に応じた課題提示や振り返りを充実させる。また、学校だよりや学年・学級通信、授業参観等を通して、具体的な活用場面や生徒の学びの変化を保護者に発信する。 ③授業内容とつながる課題を工夫するとともに、家庭学習の目的や進め方を生徒と保護者に分かりやすく示す。また、取組状況を定期的に確認し、個に応じた声掛けや支援を行う。 ④図書だより等で図書室の本の紹介をする。 ④雨の日などグラウンドが使えない日に、図書室を利用するように放送で呼び掛けをする。 ⑤総合的な学習の内容を文化祭で発表し、保護者・地域の方に取組を発信していく。					

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価			
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A			
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A			
				・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B			
				・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A			
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして不登校対応に取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B			
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A		
					・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A		
			③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A	
						④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った（自分にはいいところがある）。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート
	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A							
	自己有用感（人の役に立っている）や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A						
		・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A						
	(成果と課題)								
	②不登校やいじめについて、早期発見・未然防止のために組織的に対応することができた。具体的には、毎月行っているアンケートの実施により早い段階で、発見し組織的に対応することができている。								
	④8割以上の生徒が自分のことを肯定的に受け止めている。様々な教育活動を通じて、頑張りを認め合う雰囲気ができている。								
	(改善策等)								
②アンケートを紙媒体で実施しており、すべてを把握できていない可能性もあるので、ジブンミカタプログラムの活用を進めていきたい。									
④2割の自己肯定感が低い生徒がいることを意識しながら、学校全体で自他を認め合える関わりを続けていく必要がある。									

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革(ワーク・ライフ・バランスの向上)に努めた。	・教師アンケート	B	B	
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B		
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A	
				・教師アンケート	A	A	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
	(成果と課題) ①7月から5時間授業とし、部活動終了時刻を早めるなどして、繁忙期の事務処理等に携わる時間を確保することができた。 ②定期的な活動休止日の設定により、活動の適正化と計画的な部活動運営が図られた。 ③スクールサポートスタッフが校務事務や印刷等の定型的業務を幅広くサポートしたことで、教員が生徒の指導や授業改善に集中できる時間が確保された。 ③PTA活動をサポーター制にすることで、教員が時間外勤務のPTA活動を実施することが減少した。 ①時間外勤務が80時間を超える教職員が減少しないことが課題である。						
	(改善策等) ①行事担当者を複数配置するなどして、業務内容の平準化に努める。 ①学年部や担当者の裁量を拡大し、迅速に業務に取り掛かれるようにする。						
	評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
	地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	B
					・教師アンケート	B	
・保護者アンケート					A		
・地域アンケート					B		
②		情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・地域アンケート	A		
③		来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
				・保護者アンケート	A		
				・地域アンケート	A		
(成果と課題) ①学校運営協議会の様子をホームページで発信することで、学校運営協議会の取組を保護者に理解してもらうことができた。 ③スクールサポートスタッフが中心となり保護者や来校者に対して誠実な対応ができていた。							
(改善策等) ②引き続き、ホームページ等で学校運営協議会を含めた情報発信に取り組んでいく。 ③今以上にスクールサポートスタッフ等と連携を図り、来校しやすい雰囲気づくりに取り組んでいく。							

＜評価基準＞ A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満